

## 地方独立行政法人山口県産業技術センター評価委員会（第31回）の審議要旨

- 1 日 時 令和3年8月6日（金） 15:00～16:00
- 2 場 所 県庁 第2会議室
- 3 出席者 堤委員長、岡藤委員、木村委員、田中委員、中島委員  
(委員長以外50音順)

### 《内 容》

#### I 報告事項

- 前回評価委員会（第30回）の審議要旨について  
→ 資料1により、事務局から説明  
《各委員了承》

#### II 審議事項

- 令和2年度における業務の実績に関する評価について  
→ 資料2により、事務局から説明

《資料説明後、質疑応答・意見交換》 ●委員 ○センター ◎事務局

#### ＜他の公設試との連携強化について＞

- 技術支援等をより充実させるため、他の公設試との連携を強化したほうがいいのではないか。
- 各県の公設試それぞれに特徴や強みがあり、それを職員が熟知していれば、連携したシームレスな支援体制ができると思うので、他機関の情報に熟知した職員の育成にも取り組みたい。  
また、中国地方知事会の広域連携の取組の1つとして、他県企業の利用料について、通常であれば割増となるが、中国地方に限っては、県内企業と同料金での利用が可能とするものもある。
- 機器整備の際、補完関係を築くために、他県機関と話し合いを行いながら進めているのか。
- 他県との補完関係という観点よりも、山口県の特徴を意識した機器整備を行っている。

#### ＜コーディネータについて＞

- 産業の活性化にあたり、コーディネータを配置するという本県の特徴があるが、コーディネータの力量によっては、上手く機能しないこともある。  
コーディネータの質の維持・向上については、どのようにお考えか。
- 活動内容や問題点について、個別にコーディネータのヒアリングを行っており、補完すべき点等について検討しながら進めている。  
また、他機関のコーディネータとの連携も重要と考えているが、残念ながらこの点に関しては不十分と感じている。
- 他機関のコーディネータとの連携強化の取組について、検討をお願いしたい。

### <バーチャル3Dものづくり支援センターについて>

- 遠隔地利用とあるが、どこまでを想定しているのか。
- 基本的には山口県内を想定している。

### <アフターコロナにおける対応について>

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、評価や実績が下がったものはあるか。また、アフターコロナになっても回復しないものと、回復できるものがあると思うが、その点はどのようにお考えか。
- PR活動やイベント開催件数等が影響を受けて減少している。今後の見通しは不透明ではあるが、PR活動等については、引き続き積極的に行ってまいりたい。
- リモートでのPRが可能となるなど、逆に新しい手法も生まれている。このようなものを上手く活用できるとよい。
- セミナーに関しては、今までは50人～60人程度の参加だったものが、オンライン開催により100人を超える参加者数になるなど、好評である。
- 新型コロナウイルス感染症拡大が収束すれば再開できることもあるし、また、新たな手法が整備されたという面もある。今後、両者を上手く活用できるとよい。

### <販路開拓支援について>

- 中小企業にとって、問題となっているのは販路開拓の部分。縦割りではなく、横の繋がりを意識した支援が必要なのではないか。
- やまぐち産業振興財団や県と連携しながら支援を行っていききたい。

### <子ども向けイベントについて>

- 子ども達が科学や産業といった分野に目を向けるような、イベントの開催が必要ではないか。
- 来年度の夏休みでのイベント再開に向けて検討を進めている。将来は産業技術センターの研究者になりたいという子どもが増えるよう、取り組んでいきたい。
- ◎産業技術センターのイベントについて、県教育委員会を通じて県内小中学校に周知を図ることも可能である。

### <評価書素案への追記について>

- コロナ禍により取組機会が減少している部分について、アフターコロナにおいてはしっかりと取り組んでいくこと、また、Web会議等のコロナ禍における新たな効率的な取組については、その後も継続して行うこと、さらに、他公設試との連携強化や、コーディネータの人材育成、他機関のコーディネータとの連携についても記載していただきたい。

◎記載する。

- 評価書素案への追記について、今後の事務局との調整は委員長に一任すること  
としたい。  
《各委員了承》